

## 抄 録

## 結核専門雑誌

## Zeitschrift für Tuberkulose. Bd. 80. Heft. 1. 1938.

開放性及閉塞性空洞治療問題ニ對スル 病理解剖學的觀察

O. Koch: Pathologisch-anatomische Beobachtungen zur Frage der „offenen“ und „geschlossenen“ Kavernenbehandlung.

著者ハ、空洞性肺結核患者ノ空洞ガ、種々ノ動機ヲ肋膜腔ニ開放シタモノ、空洞ニ通ズル氣管ノ閉塞シタモノ及ビ肺萎縮ヲ起シタモノ等 6 例ノ屍體ニ就テ、病理解剖學的ノ精細ナ検査ノ結果、肉眼的ニ又ハ組織學上空洞其物ニハ治癒ノ傾向アリト報告シ、他ノ同種類ノ 300 ノ剖見例ニ於テモ同様ノ傾向ヲ認メタト云ツテ居ル。

空洞ノ肋膜腔ヘノ廣開放、因ツテ起ル腔内ノ強力混合感染、全肋膜ノ共同反應、白血球浸潤即チ蛋白質加水分解及淨化作用ヲ伴ヘル滲出等ガ治癒ノ因トナリ、他ノ閉塞及萎縮ノ場合ノ治癒傾向ハ、結核菌ノ生活條件ヲ惡クシ、一方癒痕新生ヲ促進スル生體ノ働キニ因ルモノト解釋シテ居ル。(刀根山 赤染部抄)

肺結核ニ於ケル金療法ノ效果

P. Martin u. A. Rosendahl: Bilanz der Goldtherapie der Lungentuberkulose.

今日迄ノ Krysolgan ニ關スル臨牀實驗例ヲ通覽スルニ前觀察ノ期間ノ短キニ過ギルモノガ多イ。豫メ病人ノ經過ヲ觀察シ豫後ヲ立テズシテ藥劑ノ效ヲ判定セントスルハ無意味ニシテ、自然治癒ト藥劑ノ效果ヲ混同スルニ至ル。該療法ニヨリ體重何尪増加セリト報告シタモノニ於テ、治療開始前ノ體重ノ動搖ヲ測定シテキナイモノガアル。治療法ヲ異ニスル患者ヲ比較スル場合ニハ病勢及一般狀態ハ出來ル限り homogen テナケレバナラナイ。Schröder 一派ハ結核ニ於テハ對照群ヲ必要トセズト云フモ、他ノ人々ハ誰モサウハ考ヘナイ。特殊ノ療法ヲ施サナカツタ群ヲ置カズシテ前觀察及ビ治療觀察ノミテ效果ヲ云々スルノハ怠惰ト云ハナケレバナラナイ。斯ノ如キ注意ノ下ニ今日迄ノ文獻ヲ批判スルトキハ總テニ於テ Krysolgan ガ臨牀上用ヒテ可ナリト爲スベキ證據ヲ引キ出スコトガデキナイ。ソノ上副作用モ少クナイ。(刀根山 農野抄)

## Zeitschrift für Tuberkulose. Bd. 80. Heft 3. 1938.

我等ノ行ヘル捻除術ノ運命ニ就テ

Lucian Graff: Das Schicksal unserer Exairesemen.

捻除術ヲ行ツタ患者 228 名ニ就テ手術後 8-10 年ニ於テ其結果ニ就テ調査ヲ行ツタ所、全被手術者ノ 89.5%ニ於テ其ノ成績ヲ知ル事ガ出來タ。其ノ成績ニヨルト、今日迄生存シテ居ルモノハ 39%テ、残り 50.5%ハ既ニ死亡シテ居ル。其ノ死亡セルモノハ多クハ手術當時滲出型、或ハ混合型ノ病型ヲ有シテキタモノデアアル。今日尙ホ生存シテ居ルモノ、中テ、其ノ結核ガ目下活動性ノモノデアアルカ、將々又既ニ停止性ニナツテ居ルモノデアアルカラ區別スル事ハ甚タ困難ナ事デアアル。手術當時ノ病型、病竈ノ位置、一側性或ハ兩側

性、或ハ空洞ノ有無或ハ其ノ大小等ニヨツテ其ノ結果ガ異ツテ來ル。我々ノ經驗テハ、空洞ヲ有スル一側性硬化性、増殖性結核ノ場合ガ最モ成績ガ良イ様デアアル。此ノ手術ヲ行ツタ爲ニ隨ニ治癒シタト思ハレルモノハ 10%ヲ算ス。故ニモツト適應ノ吟味スルナラバ尙一層ノ成績ヲアゲ得ルデアアラウ。此ノ手術後ニ胃ノ異常ヲ訴ヘルモノガアルガ著者ノ調べタ所テハ横隔膜ガ高位ニナツタ爲ニ胃ニ異常ヲ來タシタリ、嘔氣ヲ催ス様ナ事ハ比較ノ少イ様デアアル。ムシロ大手術ヲ行ツタ爲ニ神經性ニ胃ノ異常ヲ認メルモノガ多イ様デアアル。タカラ此ノ手術後ノ胃障礙ヲ恐レテ手術ヲ中止スル必要ハナイト思フ。(刀根山 早川抄)

## 學生ノ結核

Nik. B. Oekonomopoulos, Athen: Die Tuberkulose unter den Hochschülern.

1936年アテネニ於テ開催サレタ萬國學生健康學會ニ於テ著者ノナセル演述ノ要旨ニシテ、著者ハギリシニ於ケル學生ノ「スポーツ」ト結核トノ關係ヲ述ベ、ギリシニ於テハ氣候カ悪ク殊ニ夏ハ非常ニ暑イ爲ニ學生ハ「スポーツ」ニヨツテ過勞ニ陥リ其ノ結果、結核ニ屢ニ罹スル事ヲ述ベテ居ル。又著者ハ學生ノ健康診斷殊ニ結核診斷ハ強制的ニ行フベキテアツテ、臨牀的検査許リテナク、理學的、細菌學的検査モ行ハネバナラス事ヲ主張セリ。又學生ノ療養ニ對スル補助金ハ政府並ニ大學當局ニヨリ現在ヨリ一層増額ヲシテ以テ學生結核蔓延ヲ防止スベキ事ヲ主張シテ居ル。

(刀根山 早川抄)

## 外科の手術ヲ行ヒシ症例ヨリ見タル肺臟「レントゲントモグラフィ」ニ就テ

H. Böttner: Ein Beitrag zur Röntgen-Tomographie der Lunge, eine kritische Betrachtung an Hand eines Autopsie gelangten Falles.

肺臟ノ空洞證明ニハ「トモグラフィ」が必要ナルガ、殊ニ肺臟外科ニ於テハ必要ナル。タトヘバ空洞ノ位置、大サ、或ハ手術後ノ空洞ノ状態ヲ知ルニハ缺クベカラザルモノナル。然シ此ノ「トモグラフィ」ノミニヨツテハ空洞ト肋膜肥厚トノ區別ガツカナイ事ガアルカラ、同時ニ聽診上ノ所見モ考慮ニ入レル必要ガアル。

(刀根山 早川抄)

## ニツノ診断用「ツベルクリン」軟膏比較試験

Auguste Rehling: Vergleichende Untersuchung über zwei diagnostische Tuberkulinsalben: Diaphlise(nach Küsser und Pockels) und Moros diagnostische Hauttuberkulin-Salbe.

諸種結核性疾患ヲ有スル患者(外科的結核モ含ム)並ニ結核ヲ疑ハシムル小兒ニ於テ、Diaphlise「ツベルクリン」ト Moro「ツベルクリン」ヲ以テ「ツベルクリン」反應ヲ檢セルニ、兩「ツベルクリン」共ニ陽性ヲ示セルモノ69.9%ニシテ、Diaphlise「ツベルクリン」陽性ニシテ Moro「ツベルクリン」陰性ナルモノハ5.59%ナリ。反之、Moro「ツベルクリン」陽性ニシテ Diaphlise「ツベルクリン」陰性ナルモノハ4.89%アリ。又兩「ツベルクリン」共ニ陰性ニ終レルモノハ19.58%アリ。即チコレニヨツテ明カナル如ク Küsser und

Pockelノ創案ニヨル新皮膚「ツベルクリン」軟膏(Diaphlise)ハ Moroノ「ツベルクリン」軟膏ト略ク同様ナル診斷的價值ガアル。而モ Diaphliseノ反應ハ非常ニヤサシクテ、「バラアレルギー」様反應ヲ起ス事カ少イ。Moroノ「ツベルクリン」軟膏ハ屢ニ非特異性反應ヲ現ハシ、時ニヨツテ濕疹ヲツクル事ガアル。病竈反應ハ兩「ツベルクリン」共ニナイラシイ。腺病質ノ子供ヤ、滲出性體質ノモノハ一般ニ反應ハ著明ナルガ、Diaphliseノ方カ Moroノ「ツベルクリン」ニ比シテ反應ハ餘程劇シクナイ。(刀根山 早川抄)

## 第21回ラインーウェストフール結核學會會報

Tagungsbericht der Rheinsch-Westfälische Tuberkulose-Vereinigung. 1937年12月11日 Düsseldorfニ於テ開催。

Dr. Lochtkemper (Berichterstatter) Schulte-Tiggens (RheinlandノHonnf療養所)。

約10年前ニ Redeker 及 Walterノ成人肺癆ノ發生並ニ逐進ト云フ書物ガ出版サレタガ此中テ著者等ハ次ノ事項ヲ強張シテ居ル。

- 1) 「レントゲン」診斷ハ打聽診ヨリ勝レテ居ル。後者ノミテハ結核ノ治癒セルモノ、又ハ陳舊型ノモノヲ捕捉シ難イノミナラズ、肺癆ニ導ク様ナ早期型ヲモ見逃ス事ガアル。
- 2) 肺結核ノ一般症狀、即チ食慾不振、易疲勞性、咳嗽、咯痰等ハ初期症狀トシテ診斷上價值ガ有ル。然シ最近ノ知見ニ據レバ早期型ニハ特有ノ症狀少ク時ニハ流感様ノ症狀ヲ始マルモノ有リ、肺癆姿質モ全然認メラレス場合ガ有ル。カ、ル患者ハ榮養良ク醫ヲ訪ルル事ハ稀テアリ、醫師モ亦「レ」線ノ助け無シニハ正シキ診斷ヲ下シ得ナイ。
- 3) 結核ノ疑ビアル老人テハ特ニ繰リ返シ「レ」線検査ガ大切ナル。又明確ニ診斷ノ下サレタ他ノ内科的疾患ノ場合テモ胸部「レ」線検査ハ必要テ殊ニ流感ノ場合ニ然リ。
- 4) 新ラシイ見解ニ據ルト成人肺癆ノ初メハ急性ニ起ツタ比較的大キナ周縁性炎衝ノ部分ニ新病竈カ現ハレテ起ルモノナル。

以上ノ四項目ニ對シ各人ノ意見ガ述べラレタ。

- 1) ニ對シ——肺疾患ノ診斷ニ當ツテ「レ」線ノ方カ打聽診ヨリ優秀ナル場合ノアル事ハ皆經驗シテ居ル、上記ノ書物ノ出版以後ノ經驗ニ據ルニ、小空洞ヤ、小浸潤ヤ、feinkörnig, mittelkörnigノ病竈ハ打聽診テハ分ラ

ヌ場合アリ。然シ之ト反對ニ劇シイ氣管枝炎ヲ聽診上劇烈ナ症状ノ有ル場合ニ「レ」線テハ之ヲ捕捉シ得ヌ場合ノアル事ヲモ經驗スル。其後ノ多クノ經驗ニ據ルニ此書ノ著者等ノ言ノ如ク「レ」線ノ透視ノミテハ病變ヲ見逃ス場合ガアル。Redeker 及 Waler ハ透視ノミテハ約 20%ハ見逃スト云ヒ最近 Chantaine ハ 50%ハ見逃スト云フ。故ニ完全ナル「レ」線検査ハ透視ト同時ニ撮影ヲ行ハネバナラス。Walter Schmidt ハ最近結核性ノ肺病變ノ病理解剖ト「レ」線ノ變化ヲ比較シテ述ベテ居ルガ彼ニ據レバ肺ノ石灰化竈ガ「レ」線「フィルム」ニ表現サル、頻度ハ肺内石灰化ハ 60%、淋巴腺性石灰化ノソレハ約 41%ニ過ギスト云フ。即チ「レ」線上最モ表現サレ易イ石灰化竈テモ其眞ニ存在スルモノ、約半數ガ「レ」線ニ現ハル、ニ過ギナイ、從ツテ肺ノ病竈ハ尙硬「レ」線ニ現ハレル事ノ少イ事ヲ想像シ得ル。小病竈テ vereinzelt ニ存在スルモノテ餘リ纖維化ノ傾向無キモノハ「レ」線ニ現ハレヌ。ヤツト粟粒大又ハ散發性ノ病竈即上述ノモノガ多數集合シタ場合ニ始メテ「レ」線「フィルム」ニ表現サル、ニ至ル。「レ」線ノ吸收ハ分子量及其密度ニ關係スル。「カルチウム」ハ之ガ大テアルカラ最モヨク映像サレル Heim ニヨレバ治療シタ結核病竈アル臟器ハ特ニ其石灰値ガ高イ。100 瓦ノ正常淋巴腺組織ニハ 0.041 瓦ノ石灰ヲ含有スルニ過ギヌガ、同量ノ乾酪化セル淋巴腺組織ハ 7.12 瓦ノ石灰ヲ含ミ、同ジク 100 瓦ノ石灰化セル淋巴腺ノ乾酪樣物質ハ實ニ 32.2 瓦ノ石灰ヲ含有スル。

純「レ」線學的ニ早期病竈ノ種類及ビ其病的意義ヲ決定スル事ハ必ズシモ容易テナイ。膠樣肺炎型、増殖型、萎縮型等ハ「レ」線ノミテハ之ヲ鑑別スル事ノ困難ナ場合ガ有ル。新鮮ナル病竈、増殖性ノ病竈、滲出液、血清、身體軟部組織、軟骨等ガ同一條件ノ下ニ同ジ様ニ「レ」線ヲ吸收スル事アリ、爲メニ是等ハ同様ナ陰影ヲ形成シ其鑑別ヲ困難ニスル。Schicht-Aufnahme, Gezielte-Aufnahme ハ「レ」線診斷學上ノ一進歩テアルガ、カ、ル進歩ニモ不拘尙其他ノ臨牀診斷法ヲ省略スル事ハ出來ヌ。吾々ハ肺尖結核ノ多クノ型ヲ進行性ノ性質アルモノト考ヘル傾向ガ有ルガ事實ハ然ラズ。Redeker 及 Walter ハ肺尖結核ヲ次ノ 7 型ニ分類シタ。

- 1) 肺尖ニ占居セル硬化性ノ初感染病竈
- 2) Simon ノ單發性肺尖轉移

3) Simon ノ多發性肺尖轉移

4) 第一次及第二次浸潤後ノ硬化ガ肺尖ニ起レルモノ

5) 肋膜炎性ノ Spitzenkuppe 之ハ第 4 同様ニ普通肺尖ノ癒痕性部分的「アテレクトマーセ」ヲ伴フ。

6) 肺癆性ノ Spitzenspätform; 之ハ發生上早期浸潤ニ屬ス。

7) 肺尖ニ存スル早期浸潤

病理解剖學的ニハ第 1 群カラ第 5 群迄ハ一般ニ纖維性又ハ纖維結節性ノ病變テアル。故ニ Redeker 等ノ見解テハ是等ハ一般ニ良性ノモノテアリ餘リ治療ヲ必要トセズ決シテ開放性結核ニ迄進展セナイト云ハレル。Braeuning ハ既ニ 1924 年ニツルパングルハルト第一期テ閉鎖性、増殖性肺尖結核患者 76 例ガ 3 年後ニハ 2.63%、7 年後ニハ 7%開放性結核トナツト報告シテ居ル。彼ハ更ニ 248 例ノ開放性患者ノ 33 例即 13%ノミガ既往ニ於テ肺尖結核ヲ有シタ事ヲ證明シタ。其處テ彼ハ肺結核ヲ 2 型ニ分類シタ。1ハ良性テ稀ニシカ肺癆ト爲ラスモノ、他ハ悪性ノモノテ非肺尖型テアル。又 1926 年ニ同氏ガ非常ニ多數ノ肺尖結核ノ剖見ヲ行ツタ際肺尖ニ結核ナル場合ニハ決シテ進行性ノ結核ハ見ラレナカツタト云フ。其他 Redeker, Lydtin-Romberg, Kayser-Petersen 等ノ統計、Jenenser 療養所、Rheinland ノ療養所等ニ於ケル統計ガ擧グラレテ肺尖結核ナルモノ、一般ニ良性ナル事ガ論セラレタ。

(2)ニ對シ——診療ノ經驗ヲ積ムト廣イ結核病竈ヲ有シテラ、何等自覺症狀ナク活動シテ居ル多クノ例ヲ認メル。又療養所ノ患者ノ多クハ廣汎ナル病竈アルモノガ其病勢ガ停止性ト爲ルヨリモ早く先ヅ患者ノ自覺症狀ガ消失スル。從ツテ患者ガ其療養ヲ餘リ早く中止スル傾向ガ起ル。此ノ自覺症狀モ非常ニ劇烈ナルモノカラ極メテ僅少ノモノ又ハ全然症狀ノ無イ者モアリ、其間ニ様々ノ Übergang ガアル。一見強壯ニ見ユル人テ自覺症狀ナク健康ト信ジテ居ル人が實ハ開放性結核テアリ救助ノ方法ナキ病狀テアル場合ハ一ツノ悲劇テアル。Rheinland ノ療養所ニ於ケル開放性患者ノ約 75%ハ既ニ結核ニ罹リ年餘ヲ經テ始メテ氣付イタモノテアル。患者ガ醫ヲ訪レル動機ト爲ル一般症狀ハ病變ガ既ニ著明ノ廣サヲ占ムルニ至ツテ初メテ發スルモノテアル。800 名ノ開放性ノ患者ノ約半數ハ醫師ヲ初メテ訪問シタ動機トシテハ咳嗽、咯痰、盜汗、

體重減少等デアツタ。又 20%ハ流感様ノ發症、25%ハ咯血、血痰 5%ハ患者ノ周圍ノ検査ヨリ發見サレタモノデアツタ。

(3)ニ對シ——今日デハ誰モカKatastermäßig. Reihenuntersuchungノ必要ヲ否定スル者ハナイ、學生、軍隊、警察、工場等ニ於ケル検査ニ據レバアル一定ノ%ニ於テ全ク氣付カナク開放性結核患者ヲ發見スル。カナル検査ハ經驗ト共ニヨリ、完全ナルモノト爲サネバナラス。確實ニシテ敏速ナル「レ」線検査、1日ニ800人—900人モノ診斷ノ出來ル方法ハ既ニ New-yorkニ於テ應用サレテ居ル (The Powers Rapid X-ray method)更ニ補助診斷法トシテ血清學的方法モ應用サレテ居ル。

(4)ニ對シ——早期浸潤カ肺炎ニ占居スル事ハ昔ハ稀ト考ヘラレタガ今日デハ左程稀有ナルモノテハ無イ。殊ニ Albers-Schönbergノ Schicht-Aufnahme及 Spitzenaufnahmeニヨルト以前見逃ガサレテ居タ肺炎ノ小空洞カ判然スル様ニナツタ、之ハ肺炎ノ小浸潤ヨリ進展スルモノデアル。之カラ Lösckeノ云フ様ニ鎖骨下ニ浸潤ノ擴カル事モアル。他面又病理解剖學ノ側カラ、肺炎ト關係ノナイ早期浸潤モ存在スル。然シ吾々ハ此處テ肺癆カ肺炎ニ始マルカ否カニ就テ頭ヲ悩マス事ハ不要デアツテ唯次ノ事實ヲ知レバ足リルト思フ、即チ、Huebschmannノ云フ意味ノ滲出性反應ハ結核菌ノ感染ヲ起シ得ル肺臟組織ノ何レノ部分ニモ起リ得ルモノテ其頻度ノ大ナル場所ハ鎖骨領域デアルト云フ事デアル。之ハ又滲出性ノ新病竈形成ニモ適合スル。

アル場合ニハ特別ノ治療ナシニ浸潤ヤ空洞サヘモガ消退スル可能性アル事ハ驚歎スベキ事デアル、此文獻ハ本誌ニ在リ)演者ノ考ヘテハ大切ナ結核ノ早期型ハ Grauガ1918年ニ初メテ報告シタ Zerstreutherdige Tuberkuloseデアル。僅カノ Zerstreutherdige Tbcハ一般ニ傷害ノ起ラナイノハ丁度纖維性ノ肺炎結核ト同様デアルカ警戒スベキハ密ナル撒布テ之ハ往々 Perifokale Entzündungヲ惹起スル傾向カ有ル。殊ニ鎖骨ノ邊ニ多イ。此型ハ残念ニモ透視テハ見逃サレルコトが多い。今一ツハ Huebschmannノ意味ノ新ラシイ血行撒布ノ爲メニ其撒布竈カ次第ニ dichtト爲ル場合モ警戒スベキデアル。Redekerヤ Walter其他ノ學者ニヨリテ結核ノ進展ニ對スル多クノ重要ナ點カ解明セラレ、之ニヨリテ結核ノ色々な相ノ捕捉カ

容易トナツタケレドモ、今日吾人ノ經驗ヲ以テシテモ尙、將來恐ラク開放性ト爲リ大多數死ノ轉歸ヲトル様ナ型ヲ正シク且早期ニ豫知シ其惡化ヲ未然ニ防ガントスル實際問題ニ向ツテハ眞ニ尙力ノ及バザル事ヲ痛感スルモノデアル。次ニ

Simonハ小兒結核ニ就テ述ベタ、即チ學校内感染、肺「アテレクターゼ」、浸潤及ビ石灰化竈ノ吸收及脱落等ヲ述ブ學校内感染—1937年ニ其學校テ1人ノ開放性結核ノ教師カラ感染シタ10名ノ學童カ療養所ニ收容サレタ。此教師ハ兩肺ノ結核テ右上葉ニハ林檎大ノ壁ノ厚イ空洞ガアリ萎縮ノ傾向顯著ナモノテ病變ハ既ニ以前カラ存在シタモノデアル。感染兒ノ年齢ハ平均8歳テ此級40人中「ツ」反應ハ26人ニ陽性(65%)即「ツ」反應陽性ノ26人中カラ10人ノ結核カ發生シタモノデアル(40%)感染兒ノ病變ハ皆初感染結核デアツタ。凡テノ學童感染カ此例ノ様ニ良性ノ經過ヲトルモノテハ無イ、演者ハ他ノ例ニ於テ死亡セルモノヲ經驗スル。感染率ハ32%カラ100%ノ間ヲ動搖スル、教師ノ結核問題ハ慎重ナル考慮ヲ拂フベキデアル。次ニ「アテレクターゼ」ニ就テ述ブ、Rösselハ初期浸潤ハ「アテレクターゼ」ト關係スルト云フテ居ルカ臨牀上ニ確實デアル、彼ノ觀察シタノハ6例ノ子供テ皆腦膜炎テ死亡シタモノデアル。此中永ク觀察シ且「レ」線検査ヲ行フタモノハ一例ニ過ギヌ。6例中2例カ剖見ニ當リ軟化セル淋巴腺 Paketeガ氣管枝ニ破レテ居ルノヲ認メ他ノ例テハ乾酪化シタ淋巴腺ノ爲メニ氣管枝カ壓迫サレ閉塞サレテ居ルノヲ認メタ。其處テ彼ハ Epituberkuloseノ陰影ノ吸收性肺「アテレクターゼ」ニ外ナラヌト結論シタ。Reinノ Fallテハ「アテレクターゼ」ハ外部カラ氣管カ壓迫サレテ起ルカ例外トシテ結核ノ初感染自身ニヨリ氣管ノ Verlegungノ爲メニ起ル事モアル、今迄報告サレテ居ル第一次結核ノ剖見所見ハ病理解剖的ニハ廣イ滲出機轉ノ外ニ膠様肺炎、融合セル乾酪性増殖性病竈、細葉性及増殖性結核等カアル。即チ「アテレクターゼ」ナルモノハ小兒結核ニ於テモ昔考ヘタヨリハ頻數ナモノト考ヘルト述べ次ニ「アテレクターゼ」ノ臨牀症狀及「レ」線像ヲ説明シテ居ル、ソシテ肺「アテレクターゼ」ト初期浸潤ノ問題ニ對シテハ演者自身ハ次ノ如ク解釋シテ居ル、即チ、周縁性炎衝ノ主要原因ハ初感染ニヨリテ惹起サレル病變デアリ此際「アテレクターゼ」ハ大抵淋巴腺ノ壓迫ニヨリテ起ル所ノ隨伴現象ニ過ギナイト述ブ。

石灰化竈ノ脱落——初期變化群ニ於テ石灰化シタ病竈ハ其硬キ性質ヲ失ハズ生涯ニ亙ツテ不動ノ儘殘ル。石灰化竈ハ約半数ニ於テハ思春期頃迄ハ中ニ生キタ結核菌ヲ保有スル。例外トシテ此石灰化竈ガ剥離シテ喀出サレルコトガアル、Brügger ハ此様ナ 2 例ヲ報告シテ居ルガ演者ハ 3 歳ノ子供及 8 歳ノ少女テ初感染後ノ石灰化竈ヲ有セシモノカ何レモ百日咳罹患後ニ「レ」線上石灰化竈ノ消失シタ 2 例ヲ追加報告シテ居ル。此例テ見ル様ニ刺戟性咳嗽ガ石灰化竈ノ喀出ヲ容易ナラシムル事ハ事實デアアル。幼少ノ子供テハ痰中ノ石ヲ搜スコトハ困難デアアルガ年長ノ子供テハ容易デアアル。1937 年夏演者ノ療養所テ 14 歳ト 15 歳ノ 2 人ノ少女ガ Kalkbröckel ヲ喀出シタ。14 歳ノ方ハ既ニ 2 年間持續ニ喀出シテ居ル。右肺ニアツタ大ナル Kalkkonglomerat ノ大部分ガ喀出サレ盡シタ。15 歳ノ方ハ 2 回小咯血ヲシ 1 回丈ケ 1 箇ノ Konkement ヲ喀出シタ、2 人共喀出ノ際ニハ胸痛ヲ訴ヘタ。Scherer ハ 1921 年 1600 名ノ患者中肺石ノ現ハレタモノ 21 例ヲ報告シテ居ル。石ノ大部分ハ炭酸石灰及磷酸石灰ヨリ成リ其外ニ少量ノ Kieselsäure 及 Magnesia 及稍々多量ノ脂肪及「コレステリン」ヲ含有ス。石灰化シタ氣管枝淋巴腺カラ出タモノデハ石ハ蠶豆大デ 0.5—1 瓦ノ重量アルモノガアル。微細ノ Kalk カ空洞内ニ出タ場合ハ之ニヨリテ刺戟性ノ咳嗽ガ増シ、空洞モ大キク爲リ不愉快ナモノデアアル。又石カ空洞内ノ分泌液テ融解サレル場合モアルガ之ハ極メテ稀ナ場合デアルト述ブ。

Hartmann. (Wuppertal-Elberfeld ノ結核相談所所長) 演者ハ本年夏某保健局ノ醫師ヨリ紹介サレタ國民學校ノ教師ヲ診察シタ。此教師ハ兩肺ノ空洞性ノ結核ヲ有シ痰中無數ノ結核菌ヲ證明シタ。彼ノ受持ノ級ノ生徒ハ 26 人「ツ」反應陽性デアリソノ中 10 人ハ初期結核テ Aprath ノ療養所ヘ送ラレタ(Simon ノ述ベタ例ハ之デアアル)此教師ハ診斷ノ確定シタ後ニモ尙三ツノ他ノ級ヲ教ヘタ事實ガアツタノテ 130 人ノ級ノ學童ヲ調査シタ所「ツ」反應陽性者 29 例「レ」線検査ノ結果ハ 1 例モ特別ノ所見アル者ハナカツタ。受持ノ級カラ感染者ヲ多く出シタノハ永イ間此教師ニ教ヘラレタカラデアリ、後ノ級テハ僅カノ時間シカ教ヘラレナカツタカラ犠牲者ガナカツタモノデアアル。此例テ開放性結核ノ教師ヨリノ感染兒童ノ意外ニ多イ事ガ確證サレテカラ後更ニ Wuppertal ノ西部ノアル都會ニ於テ

第 2 ノ同様ノ例ガ證明セラレ、此地方ノ父兄ノ間ニ大ナル不安ガ起ツタ。其處テ健康保險局、保健醫、及ビ學校監督者ノ了解ト助力ノ下ニ Wuppertal ニ於ケル全部ノ教師ノ「レ」線検査ヲ行ハントシタガ、意外ニモ此様ニ強制的検査ノ提議ハ Düsseldorf 殊ニ Koblenz ニ於テ反對サレタ。此問題ハ 1932 年 5 月及ビ 1934 年 8 月ニ於ケル政府ノ命令テ充分デアルト云フノデアアル。然シカ、ル命令ハ最近色々方面カラ尙不充分ナル事ガ分ツテ來タモノテ多クノ教師ハ此命令ノ發令以前ニ教師ト爲ツテ居ルカラ未ダ「レ」線検査ヲ受ケナイ者ガ多イノデアアル。Wuppertal ニ於ケル教師ノ強制診断ノ計畫ガ失敗ニ歸シタノテ今度ハ自由意志ニ任セ各自ニ健康相談所ニ於テ「レ」線検査ヲ受ケル様ニ通告ヲ發シタ。之ハ極メテ最近ノ事デアアルガ既ニ 100 名ノ検査ヲ施行シタ。Stettin ノ教師ハ約 20% ハ出頭シ検査ニ應ジタ、此間 1 人ノ兩側空洞アル肺結核ヲ發見シ即事當局者ニ此教師ノ解職ヲ要求シタ。演者ハ曰ク、自分ノ様ニ相談所ニ在ツテ相次グ學童感染ヲ目撃シ父兄ノ心痛ヲ知ル者ハ誰テモ教師ノ強制診断ノ必要ヲ痛感スルニ違ヒナイト述ベ 35 歳以下ノ教師ハ 1 年 1 回、35 歳以上ノ者ハ少クとも 3 年ノ間隔ヲオイテ「レ」線検査ヲ爲シ此間ニ流感等ノ呼吸器系ノ疾患ニ罹リシ場合ハ更ニ頻回ノ検査ヲ必要トスル事ヲ主張ス。而シテ演者ハ教師團ガカカ、ル検査ニ對シテ餘リ好意ヲ持タヌカノ印象ヲ受ケタガ之ハ彼等ガ一度結核ノ診斷ヲ下サレルト其職ヲ失フ事ヲ恐ルルガ爲デアルカラカカ、ル場合ニハ必要ト認メタ場合ハ充分ナル經濟的ノ保證ヲシテヤル事ガ大切デアル事ヲ述ブ。

Kleinschmidt (Köln) 教師ノ結核ノ問題ニ就テ述ブ。1937 年ニハ 700 名ノ教師ガ獨逸ノ療養所テ治療サレテ居ル。教員ノ結核ノ問題ハ大イニ考慮スベキ事デアアル。結核ノ疑ヒアル場合ニノミ検査ヲ行フノミテハ不充分デアツテ健康ナル者モ全部検査ヲシテ結核ノ豫防ハ完全トナルト述ベ次ノ經驗ヲ述ベテ居ル。演者ノ「クリック」ニ 8—9 歳位ノ子供ガ 3 名次々ト入院シテ來タ。1 人ハ左肺ノ浸潤、1 人ハ滲出性肋膜炎今 1 人ハ氣管枝淋巴腺結核デアツタ。其傳染源ハ不明デアツタガ後ニ此中ノ 1 人ノ子供ノ弟ガ肺門腺結核アル事ガ分リ又他ノ 1 人ノ兄弟モ其療養所ニ入院中デアル事ガ分ツタガ其傳染源ハ依然不明デアツタ。所ガアル日 1 人ノ男ガ其ノ 13 歳ノ子供ヲ連レテ診察ニ來タ、此

子供ハ頭腺腫ガアツタガ餘リ 羸瘦シテ居ルノデ「レ」線検査ヲ行フト重イ肺結核ノアル事カ分ツタ。入院中ノ 3 人ノ子供ガ此男ニ丁寧ニ挨拶ヲシタノデ始メテ此人ハ彼等ノ教師テアル事カ判明シタ、此處テ彼ノ妻ニ夫ノ健康状態如何ヲ質問セルニ、時ニ風邪ヲ引ク事ハアルガ平素ハ全く健康テアルト云フ。事實此教師ハ全く健康ナ風貌デアツタ。「レ」線検査ヲスルト比較的廣汎ナ肺結核ト一部新鮮ナ撒布竈ヲ發見シタ。此ノ例ヲ見ルモ結核ノ疑ヒアル者ハ勿論健康ナル者モ皆一様ニ一定ノ期間ヲオイテ檢診ノ必要ガアル。2 年前 Basel テ開催サレタ小兒結核豫防學會ノ國際會議「テーマ」ハ學校ニ於ケル結核豫防ト云フ事デアツタ。當時演者ハ獨逸ノ代表トシテ立ツタガ其際多クノ外國ニ於テハカハル問題ニ獨逸ニ於ケルヨリモ遙カニ多クノ法律的規定ガ多クツタ。此會議ノ結論ヲ述ベルト、次ノ點ニ歸スル、即チ、學校ニ於ケル全従業員ハ舉ツテ此運動ニ參加シ少クトモ 2 年ノ間隔テ健康診断ヲ受ケネバナラヌ。其診斷ハ臨牀的竝ニ「レントゲン」學的ニ行フ可キテアル、之ハ一定ノ健康相談所ニ於テ行ヒ法ノ規定ニヨリテ罹病者ニハ必要ニ應ジ一定額ノ物質的補助ヲ行ヒ必要ナル療養ヲ完全ナラシムベシ。

次ニ「アテレクトターセ」ニ就テ述ブ。

肺「アテレクトターセ」ハ臨牀上周縁性浸潤ト鑑別スル必要ノアル事ハ昔カラ分ツテ居タ、吾々ハ以前ニハ肺「アテレクトターセ」ノ診斷ハ臨牀上、呼吸性喘鳴、有響性ノ咳嗽及ビ高度ノ急性呼吸困難又ハ偽喘息症アリテソレニ一致スル肺所見ノアル場合ニ下スノガ通則デアツタガ、Rössel ハ近來、肺「アテレクトターセ」ハ氣管枝壓迫ノ激シイ症狀無シニモ起リ得ル事ヲ主張スルガ演者モ之ヲ認メテ居ル。然シ乍ラカハル症例ノ大部分ニ於テ所謂周縁性浸潤ハ全然無關係ト主張スルワケデハナイ、ト述ベ Rössel ノ見タ 6 例ハ皆腦膜炎ヲ死亡シテ居ル、周縁性浸潤ノ普通見ル例ニハ腦膜炎ハ稀有ナルモノテアルカラ Rössel ノ例ハ例外ニ屬スベキモノト斷定シテ居ル。一般ニ濃厚均等性ノ陰影アリテ濁音及呼吸音ノ微弱ヲ伴フ場合ハ良性ノ消退シ得ベキ肺浸潤ヲ意味スルトノミー概ニハ申サレナイ。カハル場合ハ「アテレクトターセ」ノ事モアルガ又乾酪性肺炎ノ場合モアリ得ル。カハル陰影ノ唯一ノ原因トシテ Rössel ガ「アテレクトターセ」ヲ擧ゲタ當時ニ於テ Epstein ハ乾酪性肺炎ヲ主要原因ト認メテ居ル。演者ハカハル場合一般ニ良性ト惡性ト一分ケテ考ヘ

レバ面白イト述ベ、一般的ニハカハル際ノ肺浸潤ハ良性テアルガ腦膜炎ヲ起ス危險ハ初期結核ガ進行シテ淋巴管性ノ吸收性結節ヤ、小サナ氣管枝ノ破開ヲ伴フタ場合又病竈周圍ノ乾酪化ヤ空洞アル場合及ビ上述ノ廣汎ナ乾酪肺炎及「アテレクトターセ」ヲ根柢ニ有スル乾酪肺炎ノ場合テアルト述ベテ居ル。

Hülskötter (Rheinland, Honnef 療養所)

演者ハ Simon, Hartmann 等ノ既ニ述ベタ教師ニヨル兒童感染ノ例ヲ追加シテ居ル。演者ハ兒童ノ「ツ」反應名簿ヲ作製スル際 Trier-Land ノアル高地ノ村ノ兒童ノ間テ「ツ」反應ガ非常ニ高イ%ヲ示スノヲ認メタ。此學校ニハ 4 級アリ 137 人ノ兒童ガ居ルガ此中 48 人ガ「ツ」反應陽性デアツタ。此中「レ」線検査テ 17 名ノ初期變化群、1 名ノ葉間肝腫及ビ 1 名ノ肺門浸潤ヲ發見シタ。教師團ノ全部ノ「レ」線検査ハ傳染源ノ手懸リト爲ル者ヲ發見シナカツタノテ學校ノ小使及ビ Kindergarten Schwester 迄調査シタガ開放性結核ハ見出サナカツタ。所ガアル 1 人ノ Kindergarten Schwester ノ妹ガ重病ヲ寢テ居ル事カ分リ調査スルト兩側ノ重症肺結核デアツタ、父ノ語ル所テハ彼ノ妻及ビ上ノ娘ハ 4 年前ニ次ノ娘ハ 2 年前ニ肺結核ヲ死シタト云フ。父ハ商人デアツタガ家テハ補助郵便局ヲヤツテ居リ父ガ商用ノ爲メ留守ガ多ク郵便事務ハ母ト妹ガ行ツテ居タ、子供ハ學校ノ歸途此家ニ立寄ツテ父兄カラノ郵便事務ヲ果シテ歸ルノガ習慣デアツタガ、此母ト娘ハ共ニ子供好キテ子供ヲ可愛ガル癖ガアツタ。村ノ誰モガ大ナル危險ガ其處ニ存在スルトハ知ラナカツタ。父ガ其郵便事務ヲ失フ事ヲ恐レテ家族ノ病ヲ極力秘密ニシタカラテアル、斯様ニ結核ノ傳染源ガ學校外ニ在ル場合ノアル事ハ注意スベキ事デアルト述ブ、

Randerath (Düsseldorf)

他ノ原因ヲ死亡シタ人間ニ見出サレル肺ノ結核病竈ハ肺炎ニ限局シタモノテ癥痕化シ右ニ多イ事ハ疑フ餘地ハナイ、斯様ノ病竈ガ肺炎ニアリ而モ肺ノ他ノ部分ニハ病竈ナク臨牀上ニモ結核感染ヲ思ハス症狀カ生前認メラレナイ事ハ肺炎病竈ノ自然治療ノ傾向ノ強イ事ヲ物語ルモノテアル。然シ乍ラ進行性ノ慢性肺結核ハ決シテ肺炎ニ始マルモノテ無ク、鎖骨下ニ始マルト單純ニ結論スル事ハ出來ナイ。肺炎ニ於ケル死ノ轉歸ヲトル様ナ重イ慢性結核ハ剖見上稀ナルガ、又半面進行セル肺結核ノ肺炎病竈ハ時ニ之ヲ認メル事ガアル。演者ハ偶然ニ剖見ニ際シテ次ノ様ナ 4 例ヲ經

驗シタ、即チ新鮮ナル肺炎病竈が乾酪化及融解ヲ起シテ後鎖骨下領域ニ擴ガツタ例デアアル。病理解剖學者ハ結核が鎖骨下ニ初發スル事ハ實際上ハ例外ニ屬スルモノテ大多數ノ慢性肺結核ハ肺炎ニ初發スル、例ヘ「レ」線像ヲ鎖骨下ニ初發ヲ思ハセル場合テモ病理解剖上テハ肺炎カラ始マルモノガ大多數デアアルト主張スルガ演者ノ4例モ之ト一致シテ居ル。剖見上治癒シタ肺炎病竈が多クテ進行セルモノ、少イノハ剖見上一上ル様ナ人ハ初發ノ結核ヲ見ル事ノ出來ナイ年齢ノ人が多イ爲メデアアルト述ベテ居ル。演者ハ最後ニ「アテレクターゼ」ノ問題ヲ批判シテ次

### Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 80. Heft 4, 1938.

#### 兩側性肋膜外氣胸術

Gerhard Saner:

兩側性肋膜外氣胸或ハ油胸術ノ經驗12例ニ就テ述ベテキル、適應ハ肺炎上層部ニ小中程度ノ空洞形成ガアツテ保存療法ニヨリ效果ガナク兩側ノ虚脱療法ヲ必要トナルモ肋膜腔内氣胸ハ技術上不可能或ハ不完全デアツタモノデアアル、呼吸機能低下ニヨリ兩側ノ完全虚脱不可能デアアルト思ハレタモノテハ豫メ肋膜内氣胸ヲ施行セズシテ始メカラ肋膜外氣胸ヲ作製シタ、12例中2例ハ初メ一側ニ施行シ其後ノ經過ニヨリ反側ニモ施行ノ止ムナキニ至ツタモノデアリ、10例ハ始メカラ計画的ニ兩側ニ施行シタモノデアアル、呼吸機能検査ニヨリニ肺炎上層ノ病竈部ノ部分的兩側虚脱ニヨリテ呼吸ハ著シキ障碍ヲ蒙ラナイ事カワカツタ、肋膜剝離後ハ初メ全部空氣ヲ補足シテ虚脱ヲ持續シタガ數例ハ其後油或ハ「パラフィン」充填ヲ必要トシタ。現在12例22回肋膜剝離中14ハ氣胸8ハ油胸ヲ持續シテキル、2ハ合併症ノタメ再ビ閉塞シタ。最終成績ハ勿論未ダ云フヲ得ヌガ今日迄ノ成績ハ有望デアアル、第2回ノ手術後間モナク結核菌ハ陰性ニナツテ來ル、全治ガ豫想サレル。(刀根山 松村抄)

#### 空洞性肺結核ノ呼吸機能不全ニ就テ

Heinrich Rothkopf: Über die respiratorische Insuffizienz bei kaverneröser Lungentuberkulose.

空洞性肺結核患者100例ニ付キ安靜時並ニ勞作負荷時ノ呼吸機能不全ヲ肺活量計ニヨリ測定シタ。一部ハ處置セザルモノテ一部ハ手術ヲ施セルモノデアアル。肺機能ノ主要ナル點ハ「ガス」交換ニアル。Arteriell Defizitハ肺機能ノ状態ヲ知ル最モヨキ方法デアアル。

ノ如ク述ベテ居ル。自分ハSimonト共ニ次ノ様ニ主張シ度イ、即チ例ヘRösselノ例ガ眞實デアアルニシテモ之ノミテEpituberkulöse Infiltrierungノ病理解剖學的ノ根柢ハ「アテレクターゼ」ナリト結論スルノハ早計デアツテ此問題ノ將來ノ研究ニ向ツテ必要ナ事ハ所謂Epituberkulöse Infiltrationガ「アテレクターゼ」ナリヤ否ヤト云フ事テハ無クテ、臨牀上Epituberkuloseヲ思ハス場合ニ如何ナル病理解剖的ノ變化ガ「アテレクターゼ」以外ニ起リ來ルカト云フ事デアラネバナラヌト主張シテ居ル。(刀根山 西村抄)

Knippingノ「ガス」代謝測定装置ヲ使用シ亦負荷試験一ハ同氏ニ從ヒelektrisches Ergometerニヨツタ。検査例中25例ヲ表示シテ説明シテキル。著者ハソノ評價ヲ次ノ三點ヨリ判定シテキル。

- 1) 擴散障碍ニヨリ arterielles Defizit.
- 2) 呼吸ノ機械的障碍
- 3) Kurzschluss infiltrat(Zäper)

安靜時、健常テハ空氣及酸素呼吸ニヨリ分時呼吸量(AMV)ハ等シクO<sub>2</sub>攝取モ等シイ、肺患者テハ同一O<sub>2</sub>攝取量ニテ空氣呼吸ノ際ハAMVガ亢進シ酸素呼吸テハ平常迄低下スル、コノ際換氣ノ亢進ト氣腔内O<sub>2</sub>張力ノ上昇ニヨリarterielles Defizitハ補償サレルノテ肺障碍ハ少イ、カ、ル例ハ肺内ノ擴散障碍ガ存在スルノデアアル。循環系ノ障碍モ關係ヲ有スルガ之ニ就テハ續報ニ讓ル。機械的障碍ニアリテハ酸素呼吸ニ於テCO<sub>2</sub>ノ充分ナ排除ヲ遂ゲルタメニAMVハ亢進シタマ、ニ殘ツテ居ル、或ル例テハ酸素呼吸ノ際O<sub>2</sub>攝取ガ減少シタモノガアル、コレハ酸素呼吸テ精神的一又機械的ニ基礎代謝低下ニ伴フテ沈靜シタモノデアアル、機能不全ニ最モ多ク亦特有ナルハ酸素呼吸ニテO<sub>2</sub>攝取ノ上昇デアアル、ソノ中約半數ハAMVハ上昇シ半數ハ低下スル。所謂Kurzschlussハ比較的稀テ酸素效果ハ少イ。

勞作負荷、僅カ50「ロット」ノ負荷テ、既ニ著明ナルarterielles Defizitヲ示ス、コノ際ニモO<sub>2</sub>攝取ノミヲ判定スルノハ不充分テAMVノ關係ヤ大サラモ評價セネバナラヌ、肺癆患者ノ心臟作業ハ中毒性ニ低下スルノミテハナク上述ノDefizitノアルモノテハ動脈血化ノ不足ニヨリテモ起ル。如斯機能不全ノアル肺結核ニ

ハ最も節約的ナ虚脱療法が必要ノ様ニ思ハレル、肋膜外氣胸或ハ油胸術ハ先ツコレニ入レネバナラヌ。

(刀根山 松村抄)

### 皮膚結核ト全身結核

Hans Paul Bott: Die Hauttuberkulose im Rahmen der allgemeinen Tuberkulose.

1937年ニ行ヒタル525例ノ皮膚結核ノ臨牀的觀察ト患者環境ノ檢索ノ結果報告テアル。患者ノ大部分ハ著者ノ Lupusheilstätte, Giessen ニ治療ヲ受ケタルモノ殘餘少數ハ Lupussprechtagge ニ得タル材料ニシテ、中9例ノ Tb. cutis verrucosa, 5例ノ Erythema ind. Bazin, 13例ノ Tb. cutis solliquativa ニシテ他ハ全部 Lupus 患者ナリ。

性別: 女310ニ對シ男215、即チ3:2、諸家ノ成績ト同ジク女ニ遙ニ多シ。

初發年齡: 若年者殊ニ10歳迄ノ發病最も多ク、5歳ヨリ25歳迄ノモノ半數ヲ超エ、成人期ハ約 $\frac{1}{4}$ ノミ。全狼瘡患者ノ胸部「レ」線検査: 寫眞撮影ヲ爲セル427名中、肺ニ病變ヲ有セルモノ259、細別次ノ如シ。滲出性空洞性、開放性結核16(3.74%)、増殖性、硬變性、活動性結核33(7.75%)、非活動性硬變性結核98(22.9%)、初期變化群23(5.38%)、肺門部石灰沈着乃至輕微變化53(12.45%)、著明ナル肋膜病變28(6.32%)、肺葉間膈脈8(1.87%)。即チ現在若シクハ過去ニ於ケル肺結核罹患者147(34.42%)。特ニ粘膜炎患者75名ニ就テハ33名ノ肺病變所有者アリ、開放性ノモノ6名。他ノ肺外臟器結核ハ、骨結核36名、喉頭結核20名、腺結核127名、眼結核5名。

狼瘡瘡: 狼瘡ヨリ癌ノ發生率ハ、文獻ニヨレバ1 $\frac{1}{2}$ —4%ナレド、著者ノ場合ハ500例中41即チ8.2%ニ及ビ、年齡關係ハ50代ヨリ急激ニ増加、誘因トシテハ

Jaahssohnノ説ク如ク、「レントゲン」線照射(26例)、「ラヂウム」照射(4例)ヲアグ。但シ、強度ノ照射ニヨルモ、皮膚萎縮或ハ潰瘍ヲ招來セルノミーニシテ發瘡ニ至ラザルモノアリ。

環境検査、(A)家族ノ直接檢診ニヨリ知り得タル、近親者結核、配偶者4、同胞18、子女10、兩親8、血族9、同居人3、(B)既往關係ノ探求ニヨリ推定サル、モノ、配偶者8、同胞60、子女18、兩親86、血族21、同居人8(A)ノ結核病型、肺結核44、皮膚結核5、骨結核1、腺結核2、(B)肺結核145、皮膚結核26、骨結核8、腺結核9、喉頭結核7、ソノ他6。要之近親者結核ノ大部分ハ肺結核ナリ。

結論: 皮膚ニ結核性病變ヲ有スルモノハ多クノ場合、他ノ臟器結核ノ經過ヲ良好ナラシム。上述ノ事實ハ又、狼瘡治療ノ臨牀ニ重要ナルノミナラズ、全身結核ノ示標トシテ結核豫防、撲滅上ノ意義深キモノアリトス。

(刀根山 岩崎抄)

### 肺結核ノ藥物治療

Hermann Grebe: Über medikamentöse Therapie bei Lungentuberkulose.

メキシコノ Fa. Jacquet y Cia ノ創製ニカ、ル Extrol ナル製劑ノ治験報告ニシテ、本劑ハ主成分、Guajakol 及ビ Eukalyptol ノ他ニ Resoreinol 及ビ鹽化「カルチウム」ヲ含有シ、ソノ作用ハ氣管枝筋肉及ビ氣管枝腺組織ヲ刺戟興奮セシムル結果、粘液ヲ溶解セシメ咯出ヲ容易ナラシメ、咳嗽ヲ輕減スルヲ以テ、氣管枝ノ隨伴症狀ニハ對症的效果アルモ、結核病變ソノモノニハ何等好影響ナシ。コレト同ジ Guajakol 製品ニシテ知名ノ Siran 氏試驗ヲモ行ヒタルニ、殆ド同様ナル效果ヲミタル他、食慾増進ノ作用アリト。

(刀根山 岩崎抄)

## 結核外専門雜誌

### 種々ノ「アルカリ」度ノ培地ニヨル結核菌分離試験ニ就テ

Von Dr. Eduard Groh: Über Versuche zur Trennung gemischter Tuberkelbazillenkulturen auf Nährböden von verschiedenem Alkalitätsgrad. (Zbl. Bakter Orig 1938 Heft 3/4)

人間ノ結核性疾患約200例ニツキ實驗セル結果、成人

竝ニ小兒ノ結核性疾患ニ於テ殆ド常ニ人型及ビ牛型菌ノ同時ニ存在セルヲ證明セリ。兩型菌ハ培養及ビ集落ノ形態又ハ動物試驗ニヨリ區別ス。之ヲ目標トシテ分離菌集落ヲ動物ニ接種シ、更ニ之ヨリ分離培養シ純粹ニ菌ヲ得。此ノ場合著者ハ純培養ニテ數代培養ヲ重ネル事ハ困難ニシテ、兩型菌ノ存在スル時ハ發育良好ナル點ヨリ兩者ハ「Symbiose」ヲナスモノト觀察シ、



適當ナル「PH」ヲ有スル培地ニヨリ兩者ヲ純培養セント試ミ、レベンシタイン培地ヲ改良シ、或ハサウトン氏培地、肉汁培地ヲ適當ニ配合シ卵ヲ加ヘ「PH」5.6—8.0ノ培養基ヲ作り、人型 48、牛型 20 例ニツキ實驗ス。人間ノ病竈ヨリ得タル 48 例ニツキ培養ヲナスニ殆ド常ニ人型ト牛型ト存在スルヲ見ル。之ヨリ人型菌ヲ純粹ニ分離シ種々ナル「PH」ノ培地ヲ用ヒルモ發育次第ニ惡ク「Dysgonie」ノ状態トナル。此ノ集落ハ灰白色ヲナシ數月培養ニヨリ「Hof」ヲ作ル、更ニ長時日培養スルト「Hof」ニ似タル物質ヲ諸々ニ生ズ。之ハ極メテ小ニシテ辛ジテ見得ル程度ナリ。此ノ集落ハ動物試驗上海獺、家兎ニ對シ病原性ナシ。之ニ反シ培養中集落稍々大トナリ、「Hof」ノ中心部高マレルハ牛型菌ニシテ、卵培地ニテハ硝子様、光澤アリ或ハ青白色ヲ呈シ半球狀ノ集落ヲナス。長期培養ニヨリ同様ノ「Hof」ヲ作ル。之ハ家兎ニ對シ病原性ヲ有ス。兩型菌ヲ混合シ動物試驗ヲナスニ、海獺ハ高度ノ病變ヲ示シ、家兎ハ僅ニ變化ヲ呈ス。培地ノ「PH」ト發育關係ヲ觀察スルト、人型ハ中性及ヒ弱「アルカリ」ニ良好ナル發育ヲナス。液體培地ニテハ弱酸性ニテ薄キ膜ヲ伴ヘリ、酸度強キ程膜ハ薄シ。牛型ハ初代ニテハ「PH」ニ關係ナク發育惡ク次代ニテモ酸性ニハ發育惡ク長期培養スルモ形態ノ變化ナシ。之ヲ中性又ハ弱「アルカリ」性培地ニ移ス時ハ集落ノ密生セリト孤立セルトニヨリ形態ニ變化ヲ生ズ、即密生セルハ牛型ノ特異性ヲ示シ、孤立セルハ一ツハ牛型ノ發育ヲナシ、他ハ表面粗雜、灰白色ニシテ次第ニ橙色トナリ赤色ヲ帶ブ。鏡檢スルニ變化セル集落ニハ牛型菌少ク次第ニ人型ノ多クナルヲ見ル。液體培地ニ於テ牛型ハ酸性ニテハ全ク發育セズ中性又ハ「アルカリ」性ニテ發育シ牛型特有ノ膜ヲ生ズ。發育經過中ニ人型ニ變異セルモノハ厚キ膜ヲ生ジ黃色ニシテ皺アリ。是等ヨリ培地ノ「PH」ノ變化ガ菌ノ生物學的性狀ニ變化ヲ來シ、菌ノ形態變異ヲ招來スルモノナラント著者ハ説明セリ。(北研 野中抄)

#### 皮膚疾患竝ニ副睪丸炎ニ對スル 結核血清學的反應ノ臨牀的意義

(Robert Brandt u. Georgkien: Die klinische Bedeutung der serologischen Tuberkulosereaktionen für Hautkrankheiten u. Epididymitis. —Derm. Ztschr. Bd. 77, H. 2, S. 57, 1938.)

著者ハ Witebsky-Klingenstein-Kuhn 氏ノ抗原ヲ用ヒタ補體結合反應竝ニ球塊反應ヲ利用シ、結核性皮膚疾

患 47 例(狼瘡、壞疽性丘疹狀結核疹、顔面播種狀粟粒狼瘡、皮膚疣狀結核、皮膚腺病、結核性淋巴腺炎、バザン氏硬結性紅斑、骨竝ニ關節結核)ニ就キ検査シ、本反應ノ意義ノ判定ニハ肺ノ變化ト「アレルギー」ヲ考慮スル必要アルヲ認メタ。後者ハ壞疽性丘疹狀結核疹ニ於テ特ニ強ク認メラレ、顔面播種狀粟粒狼瘡之ニ次グ、結核性淋巴腺炎ハ殆ド陰性ニ終ツタガスベテ「アレルギー」ニヨツテ説明セラルハ、コノ特性ヲ利用シテ他ノ皮膚疾患トノ鑑別診斷ニ應用スル事モ可能デアアル。

臨牀的ニハ結核性副睪丸炎ヲ想ハシムルニ拘ラズ組織學的ニハ結核性變化ヲ認メ得ナイ場合ニ往々遭遇スルガ、本反應ハ結核性副睪丸炎ニハ定型的ニ反應スル故、カール場合臨牀的ニ充分ナ意義ガアルトイッテ居ル。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

#### 壞疽性丘疹狀結核疹ノ出血型ニ對スル補遺

(Dr. T. Wlassics-Szeged: Beiträge zu der haemorrhagischen Form der Tuberculosis papulo-necrotica. Derm. Ztschr. Bd. 76, Heft 5, 1937.)

1934 年 F. Poor 氏ハ壞疽性丘疹狀結核疹ノ出血性異型ト解セラル、症例ヲ初メテ報告シ(即チ患者ハ 25 歳ノ婦人、下腿伸側ニ棧實乃至胡桃大、半球形、暗青紅色、均等ナ結節ヲ發生、此處彼處ニ大豆大ノ開口ヲ有シ、血様膿ヲモラス)。之ヲ出血性結節狀結核(Tuberculosis nodosa haemorrhagica)ト命名シタ。

著者ハ本症ト類似セル 3 例ニ就キ、組織學的檢索ヲ行ツタ結果、血管ノ變化ニ特別ノ意義ヲ認メテ居ル。從來壞疽性丘疹狀結核疹ノ血行性發生ニ關シテニツノ意見ガ對立シテ居ル。即チ一ハ靜脈内膜炎トシテ靜脈ニ發シタ一急性病變ガ壞疽ニ導カレルトナスモノト、他ハカール靜脈系疾患ハ無數ノ側枝ヲ有スル故、決シテ壞疽ヲ惹起セズトナシ、ムシロ動脈系ノ變化ニ重點ヲ置クモノトデアアル。

著者ノ 3 例ニ於テハスベテ靜脈内膜肥厚、皮下靜脈ノ閉塞ガ最初ニ觀ラレ、病變ガ小動脈ニ及ブニ至リ炎症性現象ガ認メラレタ。靜脈系ノ一急性變化ニヨリ毛細管系ニ高度ノ擴張ヲキタシ、一時ハ靜脈側枝ガ血量ノ一部ヲ通ズルモ、遂ニハコノ通路ノ破壞ニヨリ鬱血、毛細管出血、壞疽又ハ二次的化膿ヲキタスモノト考ヘラレル。コノ際、出血竈ニ於ケル格子狀纖維ハ完全ニ消失シテ居タ。

著者ノ 3 例中前 2 例ハソノ特異ノ臨牀像、竝ニ陽性

「アレルギー」反應、動物接種ニヨリ壞疽性丘疹狀結核疹ノ深在型ト解セラレル。第 3 例ハ高度ノ出血ヲ呈スル點ヨリシテ Poór 氏ノ出血性結節狀結核疹ト思ハレル。本例ニ於テ「アレルギー」反應陰性ニ終ツタノハ皮膚ガ高度ノ「アレルギー」状態ニアル事ヲ物語ツテ居ル。著者ハコノ出血型ノ原因ヲ結核菌ニヨル皮下靜脈ノ一次性病變ニ歸シテ居ル。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

#### 「メチレン」青法ニヨル狼瘡患者尿中ノ「アスコルビン」酸定量

Kanehiko Kitamura: Bestimmung der Ascorbinsäure im Harn V. Lupuskranken nach der Methyl-enblaumethode. Derm. Ztschr. Band 74, Heft 5, 1936.)

近時正常時ノミナラズ種々ノ疾患時ニ於ケル尿中「ビタミン」Cノ排泄ガ注目セララルニ至ツタガ、「ビタミン」Cノ生体内ニ於ケル代謝ガ未ダ完全ニ闡明セラレザル今日、コノ排泄ノ有スル意義ハナホ疑問トシテ殘サレテ居ル。ソノ測定法トシテ從來報告セラレタモノハ沃度結合能測定、Dichlorphenyl 法及ビ「メチレン」青法ガアル。コノ最後ノモノハ 1934 年 Martini, Bonsignore 兩氏ノ發表セルモノテ、日光照射ニヨリ急速ニ發生シタ「アスコルビン」酸還元酸化比例減少ヲ基礎トスル。著者ハ本法ニヨリ尋常性狼瘡患者尿中ノ「ビタミン」C測定ヲ行ヒ、沃度法ニ比シソノ「ビタミン」C値ハ常ニ低ク、兩法ノ成績間ニハ平行關係ハ見出サレズ、且ツ H<sub>2</sub>S ニテ前處置セル場合ニハ兩法トモ比較的高値ヲ示スモノノ増加度ハ一致セズ、Cantan ノ錠劑投與又ハ靜脈内注射ニヨル負荷試験ニ於テハ「ビタミン」C排泄ハ遲延、減少スルヲ觀タ。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

急性紅斑性狼瘡ト血小板減少性紫斑、付紅斑性狼瘡ニ於ケル血液像ニ就テ、

(Dr. med. habil. Wilhelm Milbradt: Lupus erythematodes acutus u. thrombopenische Purpura. Zugleich Bemerkungen über das Blutbild beim Lupus erythematodes; Dermat. Wschr. Bd. 105, Nr. 31, 1937.)

症例: 生來出血性素因ヲ有スル 13 歳ノ少女、1 年前顔面、手指ニ散在性ニ紅斑性狼瘡疹ヲ生ジ、ソノ後強キ日光照射ト第 2 回ノ種痘施行後、亞急性ニ發疹ハ汎發ノ傾向ヲ示シ、同時ニ病竈部ニ皮下出血ヲミルニ

至ル。血液所見ハ著明ナ血小板減少及ビ比較的白血球減少ヲ示ス。潛出血ナク、内臓ニ結核性變化ヲ認メズ。治療トシテ先ヅ「ビタミン」C (Cebion) ノ投與ハ却ツテ症狀ヲ増悪セシム、解毒ノ意味テ Prontosil 及ビ肝臟劑ヲ用ビ一時ノ輕快ヲ得タルモ遂ニ腦出血ニヨリ仆ル。コノ症例ハ血小板減少性紫斑ニ合併シタ紅斑性狼瘡ガ日光照射(又ハ種痘ガ誘因トナリ、(全造血管官ヘノ結核性中毒作用)皮下、粘膜ヘノ出血ヲキタシタモノテ、コノ出血ハ生來ノ素因ノ爲デアラウ。

紅斑性狼瘡ニ於ケル白血球減少ハ既ニ Spiethoff 氏ノ記載スル所デアルガ、本症例モ上述ノ中毒作用ニヨリ潜在性出血素因ノ爲、容易ニ白血球減少症ヲ來シタモノデアル。尙紅斑性狼瘡各型ノ血液像變化モ全般的ニ結核ニヨルモノト見ラレヤウ。最後ニ感染竈ニ出血ニ對シ良效アリトサレル「ビタミン」Cガ却ツテ有害デアツタ事ハ注目スベキテ、之ハ一般ニ凡テノ酵素反應ノ觸媒トシテ作用スル「ビタミン」Cガ、結核性敗血症ニハ惡影響ヲ及ボシタモノト解セラレル。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

#### 一家系ニ發生セル紅斑性狼瘡

(Dr. E. Legobbe: Familiären Erythematodes, 2 Todesfälle, bei einer Beobachtung tuberculöser Organbefunde. Dermat. Wschr. Bd. 105, Nr. 36, 1937.)

紅斑性狼瘡ノ家族の發生ハ比較的稀有テ文獻上ニモ 20 例餘ヲ見ルニ過ギナイ。抑々本症ノ大多數ニハ内臓結核ガ證明セラレテキルカ、内臓結核ガ原因ナリトハ未ダ決定セラレテ居ナイ。コノ意味テ著者ハ次ノ症例追加ヲナス。即チ同一家系ノ 3 親族間ニ 3 例ノ紅斑性狼瘡患者(凡テ女性)ト 2 例ノ疑ハシキ患者(トモニ男性、凍瘡狀變化ヲ呈セルモノデアルガ、事情ノ爲、精査シ得ナカツタ)ヲ發生セルモノデアル。前者中ノ 2 例ハ臨牀ノ同様ノ經過ヲトツテ死亡シタガ、剖檢ノ結果 1 例ニハ氣管枝淋巴腺ノ結核ヲ認メ、他ノ 1 例ニハ確實ニ結核性變化ヲ證明シ得ナカツタカ恐ラク既往ノ結核性疾患ト考ヘラル、變化ヲ認メタ。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

#### ブク氏類狼瘡ノ二例

(田中謙: 皮膚ト泌尿、6 卷. 2 號. 6 頁)

第 1 例ハ 27 歳ノ婦人ノ兩側下腿ニ生セルモノ、第 2 例ハ 35 歳ノ婦人ノ顔面ニ生セルモノデアル。兩例トモビルケ氏反應ハ陽性ヲ示シタ。第 2 例ニ於テハ既往

ニ結核性頸部淋巴腺炎ト結核性鞏膜角膜炎ガアツタ。而シテ「レ」線ニヨリ肺ニ變化ヲ認メズ、血液像ハ「エオジン」嗜好細胞ノ軽度ノ增多ヲ示シタ。第 1 例ハ「ツベルクリン」療法ニテ相當ノ效果ヲ認メ、第 2 例ハ金製劑「グルゴール」ニテ良效ヲ收メタ。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

### 顔面播種狀粟粒性狼瘡ノ二例

(本田俊三: 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 43 卷, 第 6 號, 674 頁)

第 1 例, 41 歳ノ家婦。既往歴、家族歴著シキモノナシ。右頬ニ軽度ノ痒痒感ヲ伴フ數個ノ瘡瘡様小結節ヲ生ジ、3 週ニシテ左頬、前額ニ漫延、ソノ後進行ヲ停止ス。「レ」線像ハ兩肺尖浸潤、肺門陰影増強ヲ示シ、組織學的ニハ定型の結核病竈ニシテ、赤血球沈降速度促進、淋巴細胞增多ヲ認ム。「ツベルクリン」反應ハ陰性。

第 2 例、生來健全ナル 41 歳ノ家婦、右下眼瞼ニ紅褐色乃至黃褐色針頭大ノ小結節數個ヲ發生、コノモノハ極メテ徐々ニ右頬、眉間、左下眼瞼並ニ左頬ニ漫延ス。胸部「レ」線像異常ナシ。「ツベルクリン」反應陽性。組織學的ニハ定型の結核病竈ニシテ、中ニ僅少ノ結核菌ヲ認メ得タ。

治療ハ兩例トモ「ツベルクリン」注射並ニ臭化「ラヂウム」貼用ニヨレルモ、秋季ニ於テ増悪ノ傾向ヲ觀タ。著者ハ從來我國テナサレタ報告例 124 ニ就キ、年齢、性別、發生部位、職業の關係、地方的分布等、諸方面ヨリ統計の考察ヲ行ヒ、本症カ日光ニ曝露セラル、職業者ニ多ク、發生分布カ日光ニ惠マレタル地方ニ多ク、且ツ季節的ニハ秋 10 月ニ最高罹病率ヲ示ス等ノ事實ヨリシテ、特ニ本症發生ノ一誘因トシテ、紫外線ノ大量の照射ナル外的刺戟ヲ強調シテ居ル。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

### 皮膚結核症ノ細菌學的研究

(山崎順: 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 43 卷, 第 4 號, 昭和 13 年 4 月)

從來困難トサレタ皮膚結核竈ニ於ケル結核菌直接培養ハ近時改良進歩セル培養法ノ應用ニヨリ漸ク陽性率ヲ向上シタガ未ダ充分トハナシ難ク、而モ眞正皮膚結核、就中尋常性狼瘡ニ關スル成績ヲ主トシ、他種皮膚結核症ニ於ケル業績比較的尠シ。他方皮膚結核患

者流血中ヨリノ結核菌培養ニ至ツテハ獨リレーウエ<sub>ン</sub>ジュタイン氏等ノミ陽性成績ヲ示スモ、一般追試者ノ成績ハ之ヲ肯定スルニ至ラズ。更ニ菌型及ビ毒力ノ問題ニ關シテモ本邦ニ於ケル報告數ハ從來三ヲ數フルニ過ギナイ。

著者ハ東大皮膚科外來ヲ訪レタ諸種皮膚結核患者 108 例ニ就キ結核菌分離培養ヲ施行、ソノ中 78 例ハ硫酸水ニテ前處置セル病竈組織乳劑ヲモツテペトラニヤニ氏及ビレーウエ<sub>ン</sub>ジュタイン氏培養基ニ試ミ、尋常性狼瘡 12 例、皮膚疣狀結核 11 例、皮膚腺病 6 例各々全例ニ於テ陽性成績ヲ擧ゲ、顔面播種狀粟粒性狼瘡ハ 9 例中 1 例、バザン氏硬結性紅斑ハ 19 例中 1 例、ブ<sub>ッ</sub>ク氏類狼瘡ハ 2 例中 1 例ニ於テ夫々結核菌ヲ培養シ得タ。直接培養陰性ナリシブ<sub>ッ</sub>ク氏類狼瘡ノ 1 例ニ於テハ組織片ノ海狸接種ニヨリ間接的ニ結核菌ヲ分離シ得タ。

又全 108 例ニ就キ、流血ヲ材料トセル場合ニ於テハ、尋常性狼瘡ノ 1 例、バザン氏硬結性紅斑ノ 2 例ニ於テ陽性成績ヲ擧ゲタルノミニシテ爾餘ノ大多數ハ陰性ニ歸シタ。

著者ハ更ニ動物實驗上ニ於ケル差異ヲ利用シテ菌型ノ決定ヲ計リ、(菌聚落ヲ乳劑トナシテ家兔ノ靜脈内及ビ皮下ニ注射)結核菌ヲ分離セル計 35 例中 5 例(14.3%)ニ於テ牛型菌ヲ證明シ、中病竈ヨリ得タル菌株ニ就キ觀レバ 33 例中 5 例(15.2%)ニ牛型菌ノ感染ヲ認メタ。又病型別觀察ニヨリ眞正皮膚結核症ニ於テハ病型ノ如何ヲ問ハズ牛型菌ガソノ原因タリ得ベク、就中皮膚疣狀結核テハ牛型菌ノ感染率(11 例中 3 例)比較的高キヲ認メタ。

更ニ海狸ヲ使用シ、培養結核菌ノ毒力程度ヲ可及の正確ニ檢索セル結果、皮膚病竈ヨリ得タル菌株ノ約 50%ニ於テ毒力減退セルヲ證明シ、流血中ヨリ培養セル 3 菌株ニ於テハ 2 菌株ニ毒力低下ヲ認メタ。

1 例ノ皮膚疣狀結核ヨリ eugenic-Bovin, 1 例ノ皮膚腺病ヨリ dysgonic-human ナル異型結核菌ヲ培養シ得タ。

分離結核菌ノ菌型及ビ毒力ト疾患ノ輕重或ハ豫後トノ間ニハ特殊ノ關係ヲ發見シ難イ。

(千葉醫大皮膚科 秦抄)

## 一 般 學 術 雜 誌

肺結核ノ虚脱療法ニ於ケル横隔膜神経麻痺ニ就テ  
Anton Sattler: Wien. Med. Wsch. 1938. Nr. 23, 24.  
横隔膜神経麻痺ニハ横隔膜神経切除、擦除竝ニ壓挫、  
氷結「ノボカイン」、「アルコール」ノ同神経内注入ニ依  
ル局所傳導中絶等ガアル。

扱テ是等ノ處置ヲ行フニ際シテハ同神経ノ出所走行、  
副枝、吻合等ヲ熟知スル必要ガアリ就中 C<sub>5</sub> トノ吻合  
ハ常ニ考慮スベキテアル。

横隔膜神経切除ノミテハ不充分デアリ擦除ニヨリ少  
クトモ10 握以上取ル時ハ横隔膜麻痺ヲ來タシ得ルガ  
永久的麻痺ヲ見ル事ガ屢々デアアル。一時的ノ麻痺ノ目  
的テ壓挫等ガ用ヒラレル。

横隔膜神経麻痺ノ作用ヲ見ルニ、1) 肺組織ノ虚脱、  
2) 横隔膜ノ運動停止ニヨル肺ノ靜止、3) 横隔膜ノ  
緊張竝ニ運動ノ除去ニヨリ病組織ノ萎縮ガ容易ニナル  
事ガ數ヘラレル、作用ハ横隔膜上昇ノ度ニヨルノテ  
アルカラ病竈ノ横隔膜ノ近クニアル事ガ望マシイ。肺  
上葉竝ニ中葉上部ハ特別ノ場合(葉間癒着ノ存スル時)  
ノ外ハ横隔膜呼吸ノ支配外ニアルトサレテ居ル。

適應ハ

- 1) 氣胸療法ノ實施出來ヌ時又ハソレノミテハ不充  
分ノ時。
- 2) 經濟上又社會上ノ都合テ氣胸療法ヲ續ケル事ノ  
出來ヌ時。
- 3) 中心性又ハ肺門附近ノ浸潤又ハ空洞(是等ハ氣胸  
ニハ反應セズ横隔膜術ニテ良結果ヲ得ル事ガアル)。
- 4) 肺充填術、胸廓成形術ノ補助療法トシテ。
- 5) 胸廓成形術ニ先行サスベキヤ否ヤノ問題ニ關シ  
テハ著者ハ反對ノ立場ヲ取ツテ居ル。

(坂口内科 村上抄)

### Auro-Detoxin ニ依ル結核ノ治療

H. Hanser W. M. W. 1938. Nr. 19. S. 531.

Auro-Detoxin ハ硫黃ノ含有量多イ Keratinat ニ金ヲ  
結合セシメタモノテソノ特長トスル所ハ

1. 原蟲及細菌感染ニ際シ既存ノ金製劑ニ比ベテ治  
療ノ效果ノ高イ事。
2. 新陳代謝ヲ制禦シ細胞ヲ賦活シ解毒免疫力ヲ高  
メル作用ヲソレ自體ステアニ有スル有機物質ト金トノ

結合デアル事。

製劑ニハ油狀ノモノト水溶性ノモノトガアル。

使用法ハ筋肉内ニ1 週ニ一度0.1 瓦ヨリ始メテ0.5 瓦  
ニ至ル。

14 例中11 例ニ著效ヲ認メ2 例ニ輕クソノ作用ヲ認メ  
1 例ニハ變化ナカッタ。(坂口内科 村上抄)

### 膀胱結核ノ治療

Karl Putter W. M. W. 1938. Nr. 17. S. 457.

膀胱結核ノ治療ニ際シ銘記スベキ點ハ夫レハ決シテ  
原發的ニ生ズルモノテハナク原發竈ノ發見ガ必要デ  
アル。ソレニハ

- 1) 臨牀の症狀
- 2) 膀胱鏡の所見
- 3) 「レ」線検査
- 4) 尿中結核菌ノ檢索ヲ參考ニスルガコノ中最モ必  
要ナ事ハ4) テ、著者ハ Chiari ノ研究所ノ Weber ノ  
集菌法ニヨリ行ツテ居ル。色々問題ニナツテ居ルガ著  
者ハ尿中菌陽性ノ時ハ常ニ泌尿器系統ノ結核ヲ常ニ  
考ヘテ居ル。

診斷確定ノ曉ハ根本的療法ガ望マシイガ何等カノ事  
情ニ依リ保存的療法ニヨラネバナイヌ時ハ攝生食餌  
ニ注意スベキデアアル。コノ際 Gerson 食餌ハ餘リ期  
待出來ナイ。

潰瘍ニ對シテハ電氣凝固法ガ用ヒラレル、高度ノ萎縮  
ノ爲疼痛耐ヘラレナイ時ハ5%「グアヤック」油15%  
「ゴメノール」、1:5000 カラ1:1000 ノ「リパノール」ノ  
液ノ注入ガ行ハレル。(坂口内科 村上抄)

### 外科的結核ノ保存療法ニツイテ

L. u. Szenthe W. M. W. 1938. S. 470.

1935 Verebely 教授ガ Rubrophen ヲ用ヒテヨリ著者  
ハ淋巴腺結核、骨結核、關節結核、痔瘻、泌尿器結核、  
乳腺結核等165 例ノ外科的結核患者ニ使用シ次ノ結  
果ヲ得タ。

1. 製劑ハ每週2,3 回量ハ1 ccm ヲヨリ始メテ3 ccm  
迄アゲ靜脈内注射ヲ行フ。重症ニハ注射ノ外生薬ヲモ  
供シタ。コノ際結核竈ノ軟化ニ際シテハ穿刺ヲ關節炎  
ニハ「ギブス」ヲ併用シタ。
2. 3—4 週テ一般狀態ハ良好トナツタ。時々局所症

状ヲ訴ヘタ者モアツタガ多クハ事無ク経過シタ。

3. 165 例中充分觀察セシ 117 例ノ中 78 例ハ治癒ヲ見殘リ 39 例ハ治療中デアルガコノ中 21 例ハ治癒の傾向ヲ認メ 18 例ハ治療ノ初期デアル。

4. 一般ニ軟部結核ノ方が骨又關節結核ニ比シ治療の效果大テ、治療期間ハ前者テハ 4—5 ヶ月テスムガ後者ハ 8—10 ヶ月ヲ要スル。

5. 年齢ノ若イモノ程ヨイ。

6. 急性ノモノ程ヨイ。(坂口内科 村上抄)

#### 實地ニ於ケル「ツベルクリン」ノ應用

Karl Dietl Wien. med. Wschr. 1938. Nr. 32/33. S. 863.

「ツベルクリン」ヲ非經口的ニ用フル時ハ局所、一般病竈反應ヲ起スガ診斷ニ應用サルベキハ局所反應ノミデアル。之ニピルケーノ皮膚反應、モローノ經路反應竝ニ皮下又ハ皮内注射ニヨルモノトガアル。

「ツベルクリン」反應陽性デアル事ハ唯結核感染ノ以前ニ行ハレタ事ヲ示スノミテ現在ノ病竈ノ結核性又ハ活動性ヲ物語ルモノデハナイ。唯小兒ニ於テハコノ兩者ノ間ニ比較的密接ナ關係が見出サレル。然シ麻疹肺炎、高度ノ羸瘦等ノ場合ニハ陰性ニナルカラ注意スベキデアル。

豫後、治療、豫防方面ニ於ケル應用ハ今ノ所多クヲ望メズ且治療ニ應用スルニハ多年ノ經驗ヲ必要トスルノデアルカラ輕々シクスベキデハナイ。

(坂口内科 村上抄)

#### 結核治療ニ於ケル精神狀態ノ意義

Hanns Alexander; Münch. Med. Wschr. Nr. 11, 1938.

著者ハ肺結核治療ニ於ケル患者ノ精神狀態ノ、重要性ヲ強調ス。肺結核ニハ早發性痴呆、結核性譫妄等ノ精神病以外ニ輕度ノ精神障礙ハ屢々認メラレルトコロテ、氣分ガ突然悪クナリ遊戯ヲ嫌フ事ガ初期感染ノ唯一ノ徵候トシテ認メラレル事ガアリ時ニ又カ、ル症狀ノミヲ示シ熱發モナクシテ「シュープ」ヲ起スモノガアル。是等ハ小兒ニ著シイガ、成人ニモ認メラル、モノテ結核菌毒素ガ植物神經系及内分泌器管ヲ侵シテ招來スルト考ヘラレル。カ、ル場合ニ患者本來ノ性格ハ重要ナ意義ヲ有スルモノテ潜在性ノモノヲ表現化スルト考ヘラレル。カ、ル場合ニ於ケル治療ハ患者ノ狀態ヲ把握シ訓練ヲ試ミル事ガ必要テ系統的ナ作業療法等ニヨル精神能力ノ向上ヲハカル事ガ望マシイ。

(坂口内科 岩田抄)

#### 脊椎結核ニ基ク腰部氣管枝瘻孔

Imbach; Münch. Med. Wschr. 1938, Nr. 11.

肺結核症狀ノ顯著ナラザリシ脊椎骨結核患者ガ膿瘍破壊ヲ思ハセル急激ナル喀痰増加ヲ示シ來レル腰部氣管枝瘻孔ノ 10 例ヲ報ズ、ソノ一部ハ病理解剖ニテ始メテ診斷ヲ下サレタルモ生前「インヂゴカルミン」、「ヨードホルム」ヲ膿瘍ニ注射シテ喀痰中ニ證明シテ診斷ヲ確定シ得ルモノアリ、又氣管攝影ニヨリコノ瘻孔ノ存在ヲ窺知シ得ルモノアルヲ報ズ。

(坂口内科 岩田抄)

#### 結核兒ニ對スル「チフテリー」豫防注射ニ就テ

Hans Bar; Münch. Med. Wschr. Nr. 15, 1938.

「チフテリー」豫防トシテ毒素抗毒素混合物ノ注射ヲ賞用スルモノ多ク結核兒ニモ之ヲ施行シテ結核経過ヲ惡化スル事無キヤヲ確メタルニ著者ハ 190 例ニベニリング會社製品ヲ用ヒ何等結核病竈ノ反應ヲ起セシモノナク、ソノ中尙「チフテリー」ニ罹患セルモ總テ輕症且合併症ヲ伴フコトナカリシヲ以テ、結核兒ニモコノ種ノ豫防注射ヲ用フベキヲ賞揚ス。

(坂口内科 岩田抄)

#### „Vitalserum”ノ直腸内注入經驗

Günther Kalle; Münch. Med. Wschr. Nr. 28, 1938.

輸血ト同様ニ血液再成ノ目的テ血清ヲ直腸セントスルモノテ Dresden ノ血清工場製 Vitalserum ヲ注射又ハ點滴注腸法ニヨリテ使用ス。本劑ハ肝臟脾臟ノ「エキス」ト馬血清ヲ混ジタモノテ大腸ヨリ吸收セラレル。著者ハ本劑ヲ長期ノ肺結核又ハ腸結核ニテ貧血ヲ起シタモノニ 150 耗ヅ、1 週 2 回位ノ割合テ繼續シ赤血球再成上認ムベキ效果ヲ收メタ。血球ノ増加ハ血色素ノ増加ヨリモ著シイガ、低色調性ノモノニハ血色素モ著シク増加スル。副作用ハ幻暈、頭痛、發汗、嘔吐テ潰瘍性ノ腸結核ガアルモノニ著シイガ、點滴注腸ニヨレバ多クハ免レ得ル。患者ハ食慾増進ト睡眠佳良ヲ訴ヘル事ガ多イ。

ソノ他著者ハ重症咯血、肝硬變症、食道壁靜脈瘤ノ破裂等ニヨル大失血時及潰瘍性大腸炎ノ頑固ナルモノニ用ヒテ有效ナルヲ認メタ。(坂口内科 岩田抄)

#### 「アウラミン」ニヨル結核菌ノ螢光染色法

P. K. Hagemann—Münch. Med. Wschr. Nr. 28, 1938.

「アウラミン」バイエル (0.1%) ニ 15 分間染色シ螢光

顯微鏡ヲ用ヒテ結核菌ヲ染色スルニチールネルゼン氏法ガ培養陽性ノ35%ヲ染色シ得ルノミナルニ比シ本法ハ培養陽性ノ70%ニ結核菌ヲ證明シ得タ。更ニ「アンチフォルミン」集菌法ヲ行ヒタルモノヲ本法ニヨリ染色スレバ培養陽性ノ90%ニ結核菌證明ヲ得タ。

(坂口内科 岩田抄)

#### 結核菌ノ届出義務成績

Von Dr. A. Machens: Die Auswirkungen der Anzeigepflicht der Kälbertuberkulose. (Berliner Tierärztl Wschr. 1938. Nr. 19.)

1933年7月 Branschweig ニテハ法令ニヨリ獸醫ハ結核母牛ノ發見及ビ其ノ犢ノ状態ニツキ届出ヲナス事トナツタ。爲ニ獸醫ハ母牛ノ肺粘液、乳汁子宮粘液等ノ検査ヲナシ之ヲ家畜保健局ニ送達シタ。之レニ由リ1933年8月ヨリ1938年5月迄ニ151頭ノ牛ニ就テノ検査報告アリ、此ノ成績ノ大略ヲ示スニ、肺粘液試験ヲナセルモノ122例ウチ66例即54.1%陽性、乳汁試験ノ44例中19例即43.2%陽性、子宮粘液試験86例中51例即59.3%陽性ナリ。之ヲ151頭ノ總數ヨリミル時ハ肺結核牛66頭(75.8%)乳房結核19頭(21.8%)子宮結核51頭(58.6%)トナル。之ヲ三者合併セルモノト然ラザルモノトシテミルト、三者合併セルモノ5頭(8.5%)二者合併セルモノ、32頭(54.2%)單獨ニ來レルモノ22頭(37.3%)ナリ。病態別ニ示スト肺及ビ子宮結核29頭、肺結核24頭、子宮結核15頭、肺及ビ乳房結核8頭等ナリ。以上ノ成績ヨリ特ニ注意サルハ、子宮結核ノ多キコトニシテ子宮ノ診斷ヲ爲スニ當リ注意ヲ要スルコトナリ。又乳汁試験ニテ乳房結核ノ少キヲ示スモ、之ハ更ニ精細ナル検査ヲ要スルモノト思考サル。今回ノ検査報告ヨリ犢結核ハ多クノ場合母牛ヨリ傳染スルモノト想定サル。

(北研 野中抄)

#### 生後十四日迄ノ犢ノ結核傳染徑路

Von H. Rautmann: Über die Ausbreitungswege der Tuberkulose bei Kälbern bis zu 14 Tagen. (Berliner Tierärztl Wschr. 1938. Nr. 19.)

著者ハ1934—1937年ノ間ニ174例ノ犢ニ就キ結核感染徑路ヲ調査シタ。病理學的並ニ解剖學的ニ症狀ヲ區別スル爲ニ、精細ナル型式ヲ作り之ニ記入スル様ニナシ大屠殺場ニ之レヲ委ネタ。即犢並ニ母牛ノ居住地存在セル結核變性ノ古サ病態ノ大サ、部位、母牛ノ子宮結核又ハ乳房結核ノ有無等ナリ。

胎盤、空氣、食餌性感染ヲ見ルニ先人ハ48:36:13ナリトセルモ、著者ニ依ルト40:58:10ノ比ヲ示ス。生後14日以内ニ於テ肺結核ヲ有スルモノハ胎内感染ヲセルモノト見ラル。稍ニ發育セル犢ニテハ胎内ニテ感染セルモノ更ニ空氣及ビ食餌ヨリ感染セル場合アリ。Schulzノ報告ニ依ルト3週ニシテ空氣傳染ヲセル例アリ。

著者ノ報告セル174例ニツキ其ノ侵入門ヲ検査スルニ、先ヅ肝臓ニ來レルモノ35例20.11%最モ多數ニ侵セルハ肺ニシテ殊ニ其ノ淋巴腺モ病變強ク114例65.52%ヲ示ス。アランチ氏靜脈管及ビ其他ノ血管ニ依リ縱隔膜腺ニ病變ヲ來セルモノ、又同時ニ肺ヲ侵セルモノモアリ。淋巴系統ヨリ肝ニ變化ヲ起シ更ニ横隔膜ヲ通り縱隔膜ニ來ルモノ。血管、淋巴兩系統ヨリ各部ニ至ルモノ等アリ。結核菌ハ侵入門及ビ之ガ屬セル淋巴腺ニハ變化ヲ起サズ先ヅ肺ニ特異ノ變化ヲ來スト言フ者アリ、又先天ノ初期感染ハ肺及ビ之ガ淋巴腺ノミニ來ルト爲ス者モアリ。

結核菌ヲ混有スル羊水ヲ吸入スルコトニヨリ結核感染アリト言フモ、此ノ場合同時ニ消化管ニ結核變化ヲ認ムベキデアル。バングノ流産菌ニ依ル場合ハ胃内ニ之ヲ證明スルモ結核ニテハ困難デアル。胎内ニ於テ既ニ感染セル犢ハ生後食餌性傳染ヲ受ケルモ急激ニ廣汎部ニ結核變化ヲ來ス事少シ。之レハ胎内感染ニヨリ幾分ナリ共結核ニ對スル防禦作用ヲ有スル爲デアラウ。

(北研 野中抄)

#### 人間ノ肺結核ニ於ケル牛型結核菌ノ意義ニ就テ

Von Dr. Ketz: Der heutige Stand der Forschung über die Bedeutung des bovinen Tuberkelbazillus für die Lungenschwindsucht des Menschen. (Berliner Tierärztl Wschr. 1938. Nr. 23.)

Robert Kochハ牛型結核菌ハ人體ニ對シテ臨牀的ニ無意義ナリトナシ、同様ナル見解ヨリ實驗報告ヲナセル諸學者モアツタ。然シ現在ニテハ牛型菌ニヨル肺結核例アリ重大ナル意義ヲ有スル病原菌ナリトセラル。Savageハ小兒結核死281例中114例ニ牛型菌ヲ證明ス。諸外國ニテモ同様ナル報告アリ。

B. Langeハ喀痰中ニ牛型菌ヲ喀出スル患者ノ職業殊ニ農業ニ從事セルモノニ就キ検査セルニ、148例中136例ハ人型、9例ハ牛型、3例ハ混合セルモノナリ。而シテ農業ニ從事セルモノニ牛型ヲ多ク見ル。殊ニ乳搾リヲ爲スモノハ牛型ニヨルモノ11.6%—13%。

ノ高率ヲ示ス。以前獨逸ニテハ1%ヲ數フルノミナルニ現在ニテハ25%ヲ示ス。乳搾リテハ成人ニ多ク次ニ15—20歳ノ者ニシテ10—12時間労働ノ職業人ニモアリ。若イ乳搾リノ喀痰中ニ牛型菌ヲ見ル時ハ多クノ場合初期感染ナルヲ常トスル。小兒期ニ初期感染ヲナシ「ツベルクリン」反應陰性ナル健康人ニシテ結核牛ヲ世話スル事ニ由リ開放性結核トナルモノアリ。

逐年牛結核ハ増加シ之ト共ニ人間ノ牛結核モ増加スル危險アリ。之ハ要スルニ臨牀的、細菌學的検査、衛生施設並ニ農業經營方法ノ改良ニ待タネバナラス。又經驗アル獸醫ノ結核撲滅ニカヲ致サネバナラス時ナリ。是等ノ實施サレル迄ハ強制的ニ乳汁ヲ粉末トスルカ家庭ニテ短時間煮沸スルヲ要ス。(北研 野中抄)

~~~~~  
會報 並 = 雜報  
~~~~~

10 月中新入會者

評議員ノ計

加 藤 隆 信 福岡市濱田町一三五  
津 留 規 滿洲國錦州醫院壺盧島分院  
柳 金 太 郎 大連市紅葉町一 關東保健館

評議員ノ計報ニ接ス  
謹ミテ哀悼ノ意ヲ表ス

内 田 平 次 郎 氏

第十六卷 第八號 岩田論文正誤表

頁	行	誤	正
996	左 21 行	検査テシ肺浸潤	検査シテ肺浸潤
998	左 1 行	Seiffler	Seuffer
”	左 9 行	, Koch	Koch.
999	左 4 行	Redcker	Redeker
”	左下ヨリ 7 行	ドモ Epstein, Fernbach	ドモ(Epstein, Fernbach
1000	左下ヨリ 12 行	„ Infiltrierung “ Schatten	Infiltrierung=(Schatten)
”	右 1 行	philie Eosinophile Infiltrat	philie(Eosinophile Infiltrat)
”	右 21 行	不正型肺炎	不定型肺炎
1006	右第八圖説明	心臟野外側	心臟影外側
1010	右 3 行	直チニ	直チニ
1020	右 8 行	Leitner Bisk, Hager,	Leitner, Birk Hager,
1022	左下ヨリ 11 行	Ronberg	Romberg
”	”	Brösamlen	Brössamlen
”	左下ヨリ 10 行	Michoels	Michaels
”	右第七表 3 例	第 週	第 3 週
1024	左下ヨリ 12 行	至リタル迄日數ハ	至リタル迄ノ日數ハ